

175 過越しの食事(3)

マルコによる福音書 14 : 18~20、マタイ 26 : 21~25、ルカ 13 : 21~30、ルカによる福音書 22 : 19

.....ニサンの月十四日、木曜日の日没後（→十五日の金曜日）の二階の大広間.....

▶過越祭の良く字をマルコによる福音書 14 : 18~20

18 一同が席に着いて（過越しの）食事をしているとき、イエスは言われた。

「**はっきり言うておくが、あなたがたのうちで、わたしと一緒に食事をしている者**（→イスカリオテのユダ）**が、**（最悪の罪をおかし）**わたしを裏切ろうとしている。**」

→詩編 41 : 10

わたし（→ダビデ）の信頼していた仲間／わたしのパンを食べる者（→アヒトフェル：ダビデ王の顧問でありながらアブサロムの反乱に組した／サムエル記下 15 : 12、31、34、16 : 15~17、23）が／威張ってわたしを**足げ**（→足蹴：ひどい—残酷な—仕打ち）にします。

→十二弟子の中で、このイエスの言葉の真の意味を理解できたのは、ユダ一人だけである。

19 弟子たちは（イエスのこの言葉にひどく衝撃を受け）心を痛めて、「**まさかわたしのことでは**」（自分の嫌疑を晴らす気持ちから）**代わる代わる**言い始めた。

→ユダ自身も他の弟子たちと同じようにした。→（マタイによる福音書 26 : 25）イエスを裏切ろうとしていたユダが口をはさんで、「**先生**（→ユダはイエスを「先生（ラビ）」と呼んでいる）、**まさかわたしのことでは**」と言うと、イエスは言われた。「**それはあなたの言ったことだ**（→いや、あなたです。／まさしく、あなたが言ったとおりです。／NIV : You have said so./NKJV : You have said it.)。」（この会話は二人だけのもので、他の弟子たちは聞こえていない）

20 イエスは（ユダに悔い改めの機会を与えるために次のように）言われた。

「**十二人**のうち**の一人**で、**わたしと一緒に**（同じ）**鉢**（の塩水）**に食べ物**（→カルパス）**を浸している者がそれだ**（→回復訳：鉢に手を浸す者だ←食べ物という表記は原文にはない）。

21 **人の子は、聖書に書いてあるとおりに、去って行く。だが、人の子を裏切るその者は不幸だ。生まれなかった方が、その者のためによかった。**」

→（新共同訳）**食べ物を浸している者がそれだ。**

（口語訳）**パンをひたしている者が、それである。**

（リビング・バイブル）**パンを浸している者です。**

カルパスの儀式→**苦い葉野菜**でパンではない。
(セロリ、よもぎ、パセリ)

▶ルカによる福音書 22 : 19、マタイ 26 : 21~25、ルカ 13 : 21~30

19 それから、イエスは**パン**（→マツァ、アフィコーメン）を取り、感謝の祈りを唱えて、それを裂き、使徒たちに与えて言われた。「**これは、あなたがたのために与えられるわたしの体である。わたしの記念として**（→I コリ 11 : 24~25）**このように行いなさい。**」→最後の晩餐は、聖餐式の源（原型）である。

コリントの信徒への手紙一 11 : 23~26

わたし（パウロ）があなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、**パン**を取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「**これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい**」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「**この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい**」と言われました。

だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。

【参考】過越しの食事（準備する物等）→神がイスラエルの民を**エジプトから解放されたこと**を**記念する**。
(出エジプト) (思い出す)

・**赤ワイン**と**酒杯**

・**塩水**：奴隷時代の血や涙、出エジプト時に紅海（葦の海）を渡った時の塩味を象徴し、セロリやパセリ（ヒソブの象徴）、苦菜を二度浸して食べる。

ヘブライ語で「ケアラー」、英語で「セダープレート」というワンディッシュ（食べ物）

ゼ ロ ア：小羊のすねの骨（鶏の脚骨で代用）

過ぎ越しの犠牲の小羊を象徴。神が小羊を用いてユダヤ人をエジプトから贖い出したことを意味する。骨はオーブンでカラカラになるまで焼く。

マーロール：マロアーとも言い、タマネギや大根、ホースラディッシュ（西洋ワサビ）など2種類の苦菜。エジプトで奴隷の境遇に落ちたユダヤ人が流した涙、苦難を象徴、キリスト者にとっては、罪の苦々しさを表す。

ハローセト：エジプトでのレンガづくり、粘土を象徴。同時に甘い味は、レンガと奴隷だったことを、常に神が共におられたことを象徴。リンゴ、クルミ、シナモン、ワインなどを混ぜ合わせたもの。

ベイツァ：ゆで卵。神殿崩壊の嘆きを表す。

カルパス：苦い葉野菜→セロリ、よもぎ、パセリ（人生を意味する）。

ハゼレト：苦い葉野菜→ロメインレタス、ルッコラなど。

そして、**マツツァ Matzos**（苦難の種なしパン）。

→マツツァは3枚（三位一体を象徴）

- 1枚目：父なる神 **アフィコーメン**(デザート)
- 2枚目：子なる神 →①半分に割り、大きな方を麻布に包んで隠す。
②子供が見つけ出し、小片に割る。
- 3枚目：聖霊 ③セデルの最後に全員で食べる。

→マツツァの条件

- ①種(→罪)なしパンであること。
- ②焦げ目(→鞭の傷跡)があること。
- ③小さな穴(→刺し傷)があること。



<https://www.foodnetwork.com/>

【参考】カルパスの儀式

3 カルパス

(参考：過越の祭 式次第 シオンとの架け橋 他)

▼パセリの皿を持ち上げる

このパセリはヒソプの象徴です。それは、イスラエル人の贖われる夜に、死の天使から家を守るために家の玄関の柱に血を塗るために用いられたものです。

テーブルに塩水の鉢が置かれている2~3人で一つの鉢を共用する。そして、パセリを塩水に浸します。塩水は、歴史を通じて流されたユダヤ民族の涙を象徴します。しかしそれは、私たちの痛みと苦しみ、罪と恥を負わされたイエシュアの犠牲の象徴でもあります(イザヤ 53章)。

ヒソプの一束を取って、鉢の中の血に浸し、その鉢の中の血をかもいと二本の門柱につけなさい。朝まで、だれも家の戸口から外に出るはならない。(出エジプト 12:22)

バルーフ アター アドナイ エロヘイ
ヌ メルフ ハオラム ボレー プリー
ハアダマー

ほむべきかな我らの主なる神、宇宙の王。あなたは地の実を創造されました。

●パセリを塩水に二度ひたしてから食べます。

血を塗ることにより、イスラエルは死の天使から守られ、神とイスラエルの契約は確認され(出エジプト 24:8)ました。それは神の契約の民に対する過去・現在・未来にわたる忠実を示すものです。それはイエシュアを通じて私たちに及び、私たちは死から命へ、闇から光へ、絶望から希望へ、悲しみから喜びへ、希望の無い人生から豊かな人生へと導いて下さるのです。

★イエスとユダは同じ鉢を使う位置関係にあった

イエシュアはユダヤ人にも異邦人にも過越の小羊(I コリント 5:7)であり、また、宿営の外で焼かれた罪の犠牲(ヘブライ 13:11-13)です。彼は神の小羊であり、エルサレムの門外で私たちの罪のために血を流された「苦難の僕」。それは神のもとに来て、彼をメシア(救い主)として受け入れる全ての人のためなのです。

イエシュアはまた、私たちの「和解の犠牲」でもあります。彼が十字架につけられた、まさにその時「ペサヒーム シェラヌ」つまり、過越のための和解の犠牲が捧げられていたのです(ヨハネ 18:28)。私たちのための平和(和解)となられたイエシュアだけが、真の和解をもたらすことができるのであり、それは彼の尊い血が流されたことによるのです。(ヨハネ 14:6)



ヒソプだと考えられているシリアンオレガノ